

同和問題（道徳）学習指導案

平成3年5月23日（木） 第5校時

3年D組 男子19名女子18名 計37名

指導者 後藤田 寿子

1 主題 真実に生きる

資料：娘の遺してくれたもの（私の願い）

2 主題設定の理由

義務教育最終学年としてスタートして約一ヵ月半、大きな期待と希望を持って集まった37名の仲間たち。それぞれに進路選択への不安を感じながらも、この一年を悔いのないものにさせたい。その為には、お互いに支えあい、励ましあう温かい人間関係の中で仲間たちみんなの進路目標が実現できることを強く願いながらスタートした。

クラスの生徒は全体的におとなしく素直である。生活や学習態度は消極的で、無気力。活気に乏しい。自分の意見や考えは持っていて人前で発表するのが苦手な生徒が多い。そこで帰りの学活時に1分間スピーチを取り入れ、自分の意見を仲間の前で大きな声で発表できるようにと練習を続けている。自分の思いは持っていてその思いを仲間に語らなければ本物とはいえないと思う。語ることによって初めて自分自身を変え、仲間たちを変容させていくことができると確信する。まだまだ小さい声での発表ではあるがそういった中で、生徒たちはクラスの一員としての意識も芽ばえ、連帯感も生まれつつある。しかしお互いを知るにつれ相手のことを考えないで自分勝手な行動をとったり相手がいやがることを平気で言ったりする生徒がいても、他の生徒が漠然と見過ごしたりしていることがあった。このようなことから、他人を思いやる心はまだ、十分に育っているとはいえない。

そしてまた、この37名の生徒のなかには自分が同和地区出身であることを十分に自覚し、家族との支えあいでがんばっている生徒、努力で克服しようとしている生徒、

その社会的立場の自覚が不十分な生徒、虚弱体質のため、登校したくても欠席せざる

をえない生徒、家庭環境に恵まれない生徒、仲間集団から孤立しがちでいつも寂しそうにしている生徒と、さまざまな悩みや苦しみを持ちながらも懸命に生きている姿がある。

欠席が長い間、続いている友がいても、心を傷めることなく平然と毎日を過ごす生徒の姿もあるなど仲間の苦しみや悩みを観念的には知っていても自分自身の問題としてとらえていない側面もある。

しかし、昨年度より学年全体で同和問題学習に取り組むようになり差別解消へむけての熱い思いが少しずつではあるが、生まれつつあり大勢の仲間の前でも本音でぶつかり合う姿が見られるようになって来ている。先日、他のクラスが研究授業をしたあとでクラスの生徒のあゆみには、次のようなことが書かれていた。

「私は差別から逃げようとしていた。私は決して、自分のふるさとを隠したくありません。でも、もし言って差別を受けたらと思うと、言いたくなくなります。そこが弱いんです。」と。またある生徒は家族との話し合いの中で両親は、「部落の人とや絶対に結婚せられんよ。」と言いました。私が「なんで同じ人間なのに。」と言うと「家の誇りがよごれる。」と言いました。というように結婚に対する根強い差別があるということを知り強い矛盾と怒りを感じている。

「わたし、部落の生まれなんよ。」と言う言葉の重みを、私自信しっかり受けとめたい。そして誰もが人間として幸せに生きていける社会にしていくために、今私たちはどう生きていくべきかを、子供たちとともに語り合いたい。

本資料『娘の遺してくれたもの』を通して結婚差別に打ち勝ち真実に生きる青年に共感させ、子供たちが明るい展望を持って自ら同和問題の解決に立ちあがろうとする強い態度を育てるため、本主題を設定した。

3 ねらい

厳しい部落差別に負けることなく、人間らしい愛を失わずはぐくんでいつた二人の生き方に共感させ、人権を尊重し差別解消に立ち上がる意欲と実践力を養う。

4 視点 真実と正義

5 指導計画

- (1) 常時指導 『あゆみ』、学年通信『ねんりん』、1分間スピーチなどで自分の思いが素直に語れ、それが受け入れられる学級づくりをする。
- (2) 関連的指導 道徳『明るい社会を』————1時間
 今なお、人権軽視や差別問題が残存していることを認識させる。
 差別意識を打破し、人権を尊重して明るく住み良い社会を——
 育てあげようとする意欲と態度を養う。
- (3) 核・心的指導 道徳「自分以下を求める心」————2時間
 道徳「娘の遺してくれたもの」————1時間(本時)
- (4) 発展としての関連指導 学活「人権作文—結婚差別と私」—1時間
- (5) 常時指導(発展) 人間としての生き方を語り、支え合い励まし合いながらともに伸びようとする集団を育てる。

6 本時の指導

- (1) 目標 今なお残っている厳しい部落差別に負けず、真実に生きる青年の態度に学ばせ、人間の生き方について考えさせる。

(2) 展開

	学習活動	主な発問と期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入	資料を読み感想を発表する	☞「娘の遺してくれたもの」を読んでどんなところが心にのこっているか。 ・ 青年は部落出身に関係なく愛子さんを心から愛して生きた。すばらしい。すごい人だ。 ・ 青年の両親も差別心がなくすばらしい。 ・ 愛、友情、人権、人命の大切さが分かった。 ・ 「今、光っていたい。」という愛子さんの生き方が心に残った。 ・ とてもかわいそう。 ・ 青年のやさしさはすばらしい。	できるだけ多く生徒に発言させる。

展開	愛子さんの人間像について資料から考える	♡愛子さんてどんな人だったのだろうか。 ・これほどまでして愛される愛子さんはきっとすばらしい人だったと思う。 ・明るくて友人も多くまわりの人から愛されていたと思う。 ・部落出身の娘として恥ずかしくない生き方をした人だ。 ・自分の好きな人に部落出身を打ちあげたなんてすごく勇気のある人だ。	・同和地区出身であることを必ず押える。
		♡「わたし、部落の生まれなんよ。」と打ちあけることができたのはどうしてか。 ・青年やその親との間に強い信頼関係があったからだ。 ・青年^やその親たちの生き方に接し、こういう人たちだからこそ打ちあけることができたのだ。	
		♡なぜその言葉が重いのか。 ・生死を決定するほどの言葉だ。 ・結婚の成否を決定する言葉だ。	・厳しい差別が現存している
		♡「今、光っていたい。」とはどういうことか ・一瞬一瞬を大切に生きたい。 ・一日一日に命をかけて生きる。 ・部落に生まれて恥ずかしくない生き方をしたい。	・ことに気づかせる。
	青年の生き方と二人を支えたものについて話し合う	♡青年の生き方をどう、思うか。 ・差別心がなく真実をつらぬいた立派な人。 ・相手に対す思いやりのとても深い人だ。 ・相手が死んでまでも変わらぬ愛を持ち続けたすばらしい人だ。	・青年の姿に共感させると共

		□二人を支え差別の壁を乗り越えさせたものは何か。 ・二人の深い愛と強い信頼。	に二人を をとりま き、支え た人の存在 に気付か せる。
		・青年やその親との間の強い信頼関係	相互の信頼関係が 差別の厚い壁を乗 り越えさせたこと を理解させる。
		□「娘の遺してくれたもの」とは何か。 ・青年の心の中に、愛子さんはまだ生き続けている。そういうすばらしい生き方をしたということ。 ・自分の名前にふさわしい生き方をしたということ。 ・人を愛し人から愛されるような本当の人間としての生き方をしていたということ ・「愛とは人に説くことではなく行うことなのだ」ということ。 ・本当の愛、友情	
発展	学び合ったことをもとに、 これからの生きひ方を語り あう	□この資料を学んでこれから自分はどう生きていこうと思うか。 ・この青年のように真実を求めて美しく生きたい。 ・人の悲しみや、苦しみがわかる人間になりたい。 ・今を輝かせて精いっぱいになりたい。	自分はどう生きていくかを語らせる。

T: 今日「娘の遺してくれたもの」という資料を通して人間としての生き方についてみんなと一緒に考えていきたいと思います。まず、最初に資料を読んでもらいたいと思います。水口和美さん、よろしくお願いします。

S: 資料を読む

T: はい、ありがとう。この前3Aがここで授業した時にみなさんの同和問題に対する心の炎が燃えあがったと思うんです。その炎を消さないように3年D組が受け継いで3年E組に送っていきたいと思います。それではまず最初に「娘の遺してくれたもの」を読んでどんな所が心に残ったかそれぞれ発表してもらいたいと思います。どうですか。

S: 愛、友情、人権、人命の大切さがわかった

S: 「今、光っていたい。」という愛子さんの生き方が心に残った。

S: 結婚相手が同和地区でも同じ人間としてみているところが心に残っています。

T: 飾らなくていいから自分の思いをありのまま言って下さい。

S: お父さんの言葉の中で自分が恥ずかしかったというのがありました。部落の人がひけめなんか感じる必要はないと思います。他の人が同じ人間と思っていても自分から殻の中に閉じ込めていては差別はなくならないと思います。

S: この青年とそのお父さんの愛子さんや家族に対する態度、思いやりに感動した。部落の出身ということで差別していない。

すばらしいと思いました。

T: 他の人はどうですか。手を挙げて下さい。

もっともっと手をあげてほしい。みんなもっと意見があると思いますよ。

S: 久次米君と同じような意見なんですけど私は愛子さんの婚約者が愛子さんがなくなってからも家の人を元気づける青年の行動に感動しました。

T: それでは先生の方から指名していきます。あたったら自分の思いを言って下さい。坂田君。

S: はくは愛子さんが亡くなってからも

家の手伝いなどをして家の人を元気づける青年の行動に感動しました。

S: 青年のお父さんが「自分を偽るようなことはようしません。」と言うところがありました。私もそんな人間になりたいと思いました。

S: 娘が日航機墜落事故でなくなったのはとても残念でした。婚約者の青年はその娘さんが部落出身であると聞いても結婚すると決めた所がとてもすばらしいと思いました。

S: 私が心に残っている所は愛子さんの絶筆の中にある「今、光っていたい。」という言葉がすごく心に残っています。

S: 私も心に残っているのは愛子さんのお父さんが愛子さんのことをとても思っている。親の子供に対する愛情がすごく心に残っています。

S: 部落出身と知っていてもそんなことに関係なく愛子さんを愛し続けた青年の生き方。

T: この青年は部落出身であろうがなかろうがそんなことに関係なく愛子さんを心から愛して真実を貫き通したという所がとても心に残っているという感想を持っている人がたくさんいました。それではね、愛子さんの人間像について考えてみたいとおもいます。

この資料から読み取れる（みんなが推測する）愛子さんてどんな人だったんでしょう。

はい、佐藤さん。

S: スポーツが好きで一日一日を一生懸命、生きたいと思っていた人だと思います。

S: 友達が多く、人一倍努力している人ですごく勇気のある人だと思います。

S: だれよりも真実をみつめられる人だったと思います。

S: とてもやさしい人だったと思います。

S: 自分に正直に生きている人。

S: 部落出身ということなんかにくよくよしない明るい人だと思う。

S: 心が強くてやさしい人。

S: スポーツが好きで人の気持ちが理解できる人だと思います。

T: 「人の気持ちが理解できる人」って言うてくれましたね。「思いやりを持った人」ということかな。他にどうですか。

手を挙げて下さい。できるだけ手をあげて下さい。

蔭木さん、どうですか。

S: とても両親思いの人だと思います。

S: 人を信じることができる人だと思う。

S: 愛子さんは自分が部落出身だということが堂々といえた。とても勇気のある人だと思う。

T: 今、彼女が部落出身ということを言うてくれましたね。愛子さんの言葉の中に婚約者である青年に「わたし、部落の出身なんよ。」という言葉がありますね。彼女は自分が部落の生まれだということを青年に打ちあけることができた。なぜ愛子さんはその青年に「わたし、部落の生まれなんよ。」って打ちあけることができたんですか。そのへんを語ってほしい。

S: 青年や青年の家族は愛子さん自身を愛していた。お互いの信頼感というものがあったと思います。

S: その青年は部落差別なんか絶対しない人だし、愛子さんもそれだけ青年を信頼していたんだと思います。

S: 「差別はいけないんだ」という考えの家族だから打ち明けられた。

S: その青年や青年の家族は差別心のないやさしい家族だと思ったし、お互いに信頼していたからだと思います。

S: もし私だったら婚約者に部落出身が知られて断られるといやだから打ち明ける勇気はなかったと思う。本当に愛子さんは勇気があるなあと思いました。

T: もっと他の人の意見も聞かせて下さい。

S: 本当に好きだったから打ち明けられたと思う。

S: 青年やそのお父さんが人を分けへだてることなく平等に接することのできる人で本当に愛子さんの気持ちを分かるような人だったから言えたと思う。

T: これほどまでにして青年から本当に愛された愛子さんはやはりそれなりの生き方をして来たと思うんですね。青年の家へも何度か訪れたことがあったらうし、青年の生き方や青年の家族の生き方を見てこの人達だったら私は部落出身ということを打ちあけることができるってそう思ったんだろうね。

やっぱり愛子さんと婚約者の深い愛の絆それと共に信頼関係、心を許せるという信頼関係それから青年の両親に対する信頼関係があったからこそ、打ちあけることができたんでしょうね。

それではなぜ「私、部落の生まれなんよ。」という言葉が重いのかということについて考えてみたいと思います。なぜその一言が重い言葉なんだろう。

S: 部落という言葉は人間関係をひきさく言葉。

S: 部落という言葉は差別につながる言葉で愛子さんの心に大きくのしかかっていると思う。

S: その言葉をいえば結婚できる場合もできなくなることが多いと思うから。

S: 部落差別という厳しいものがあってとてもいいにくい、つらいものがあるからだと思う。

S: 部落というだけで差別する人間が今でもたくさんいるからだと思う。

(みんなが青年や青年のお父さんのような考え方だったらその言葉は重くもなんともなくなる、と思います)

S: 世間の差別している人が部落という言葉を重ねた。

S: もし部落ということを知られたら急に相手の考えがかわってしまうかもしれないという不安感がその言葉を重くしている。

S: その一言でその人の人生を変えてしまうほどの言葉。

T: そうなんですね。みんなが言ってくれたようにその一言で自分の将来がかかっている。結婚できるかどうか、あるいはそれどころではなくて命がけの言葉なんです。その一言によって自分はもしかしたら死をも覚悟せないかん、あるいは死に追いつめられるそういった言葉であり今もお、厳しい部落差別が残っているんだということでもある。その一言というのは私たち世の中に生きる者にとっては本当に軽くうけとめてはいけません。これから生きる人間としてもっともっとこの言葉の持つ意味を考えていかなければいけないと思います。厳しい部落差別が今だに厳存しているという事実、それがあからこそ、この言葉がひじょうに重いということ。

愛子さんは青年のことを思いそして青年は愛子さんや愛子さんの家族のことを思って毎日、生きていた。そういう青年の生き方、いちずに愛子さんのことを思い、愛子さんが亡くなってからも愛子さんの両親を助けたり、墓まいりに行ったり、誕生日に行ったりしていますね。そういう青年の生き方についてどう思いますか。

S: 自分が信じた道をすき進んでいった、とてもすばらしい人と思います。

S: 青年の両親がすばらしいので青年もすばらしい人だ。

S: 亡くなっても婚約者の愛子さんを愛し続けたやさしい青年。

S: 差別心のないすばらしい生き方だ

自分もつらいのにまず人のために精一杯、尽くしたり、差別心のない生き方はすばらしい。

S: ふつうの人だったらこんな生き方はできない。

意志が強く、自分の信じる道を歩んでいくすごい人。

T: ほかにどうですか、もっともっと意見を出して下さい。

S: この青年は差別に負けない強い心を持っている。自分がやっていることは正しいのだ。その正しいと思っていることを貫き通して生きた立派な青年。

T: 真実を貫いて生きる立派な青年ということですね。

S: 部落出身と打ち明けられてもそんなこと関係なく愛子さん自身を見ていたのですばらしい。

S: 愛子さんに対する深い愛情があり、亡くなってからも変わらぬ愛を持ったすばらしい人。

S: 愛子さんが部落出身だということに関係なくというかそんなことをいちいち気にせずに自分の考えがしっかりしていたのですばらしい。

S: 愛子さんのことを心から思い、差別なんかしないすばらしい人。思いやりのある優しい人。

S: 差別にも負けず自分を偽らずに生きている青年はとてもすばらしい。愛子さんがなくなってからも家に来ていろいろ、つくしてくれる、そんな青年を見て、愛子さんの父母はともうれしかったと思います。。まっすぐ前を見て生きている青年をうらやましいとも感じました。

S: 自分を偽らず、今を大切に生きている人だと思う。

外見ではなくて中味をしっかりみて受けとめてあげられる人でとてもすばらしい。

S: 何が正しいかをはっきりと見きわめ自分が信じる道を、一人の女性をこれほどまでに愛し続け、そしてなくなってもなお愛し続けた。そういう青年ってすごいですね。なくなっても両親の所へ行ってお手伝いをするすごい青年ですね。

それでは愛子さんと青年の愛を支えたもの、そして差別の壁を乗り越えさせたものそれは一体何だったんだろう。

S: やっぱり愛と信頼だと思います。

S: 愛子さんが持っている人を愛する心と青年自身が持っている信じる道をつきすすむ心。

S: 深い愛と信頼。

S: お互いに信頼していたのと、家族の人達もお互いに信頼しあっていたから。

T: 今、みんなが言ってくれたように二人の愛を支えたもの、そして差別の壁を乗り越えさせたものはやはり、何をもちよせつけない二人の深い愛と相互の信頼関係（青年の両親と愛子さんの信頼関係、愛子さんと青年との信頼関係）によってその差別の厚い壁がのりこえられたんだと思いますね。

それでは愛子さんのお父さんにとって自分の「娘が遺してくれたもの」って何だと思いますか。

S: 人を愛することの偉大さ、強さ、悲しさなど。

S: 私は愛子さんが亡くなってつらい思いをしている両親を思いやり、支えてくれている青年だと思う。

T: お父さん、お母さんを励ましてくれる思いやり、相手に対する思いやりの心を忘れない青年を遺してくれたということですね。

S: 愛と温かい心と強い勇氣。

S: 後で後悔しないように一日一日を大切に生き、自分の生き方に誇りが持てるようにしなければいけないということ。

S: やさしい青年を遺してくれた。そのことによって人のやさしさも教えてくれた。

T: 人間としての生き方に誇りをもって一日一日を大切に生きるということですね。自分の生き方というのは今の生き方で将来が決まるといっても過言ではないと思います。自分の今の生き方で10年先、20年先（の将来の自分）が決まってくると思うんですね。今を精一杯、光り輝かせて生きていた愛子さんのその生き方をお父さんは娘がなくなって初めて知ったということですね。他にどうですか。

S: (愛子さんの変わりのような感じで) 相手の青年やその両親と思う。

T: じゃ、青年のどんなところを遺してくれたんですか。

S: 青年やその両親の差別をしない生き方。

T: 人間みな平等と考えて部落出身にこだわることなく愛し続けた青年の生き方ですね。

S: 「娘の遺してくれたもの」は人の命の大切さと愛の本当の意味だと思います。

T: 愛の本当の意味ってどういうことなんですか。本当の愛ってどういうものなの。

S: ?

S: 本当に「愛とは人に説くものではなく行うことだ」と思った。

T: 愛は人に説くものではなく行うことだということを愛子さんからお父さんは愛子さんがなくなって初めて知ったのだ、ということを書いてありますね。それを実証してみせたのが愛子さんであり青年であったと思いますね。自ら行うことを。そしてまたそれができる人間に成長してくれていた。それをお父さんは愛子さんや婚約者を通して学んだということですね。

それでは最後にみんなが今まで愛子さんや青年の生き方について話しあってきたことをもとに今までの自分をよくみつめ直してこれから自分はどうのように生きていきたいかということについてできるだけ多くの人に話してもらいたいとおもいます。

S: 愛子さんは一生にたった一度の人生しかないのに事故でなくなってしまってまだまだたくさんやりたいことがあったと思います。そして部落差別にもいろいろ苦しんできたと思います。ぼくたちはもうこんな人を作らないためにもこれからも同和問題学習に取り組みががんばっていかなければいけないと思います。

T: ありがとう。

S: 人間みな平等なのだからやっぱり青年みたいに人を信じて自分以下を求める心をなくしていかなければならないと思います。

T: 差別心をもたないで生きるということですね。

S: 私はいつでもこの青年のような生き方がしたいと思う。差別なんかに動じないすばらしい人間になりたいです。

- S: 青年や愛子さんのような生き方がしたい。差別に立ち向かっていく生き方をしたい。
- S: 自分の出身地が堂々と言える世の中にしていかなければならない。そのために勉強し、がんばっていききたい。
- S: 自分は今まで差別心があった。これからはこの青年のように差別心のない生き方をしていきたい。
- S: 人にやさしく、差別に立ち向かっていけるような人になりたい。
- S: 一人も部落差別に苦しむことのない世の中をつくらしていきたい。だれもが人間として尊敬される世の中にしたい。そんな世の中を私たちが実現させていきたい。
- S: 私の心のなかにまだ差別心がある。自分の心に偽りのない生き方がしたい。
- S: 人を信頼し友だちを大切にしていきたい。
- S: 私も生きているあいだ自分の思うように人間らしく生きたいです。そしてその時を大切にしていきたいです。
- S: 今を大切に精いっぱい生きたい。今しなければならぬことをくいのないようにして輝いていた。
- S: これからいろいろな差別に出会うかもしれないけど、この青年のように強い心を持てるようになりたい。
- S: 人の命には限りがある。私は今まで差別から逃げて来たけれど真正面からぶつかっていかうと思った。「人の命には限りがある」私は限りある人生を愛子さんのように今を大切に生きていかうと思う。
- T: ありがとう。今みんながこれからどう生きていくかということについて自分の思いを語ってくれましたね。このみんなの思いを各自がうけとめてそして自分の中にある思いを行動に出す中で自分を変え、仲間を変え、世の中を変えていくものだと思っています。先生もこれからはこの青年や愛子さんの生き方を参考にして自分を厳しくみつめ直しながらこの青年のように差別心をもたないで自分が正しいと信じる道を信念をもってまっすぐ歩いていける人間に、そしてまた、愛子さんのように今の自分を大切に生きる人間になりたいと思います。そしてだれもが人間として尊敬される世の中に私たちがしていかなければならないと思います。終わります。

T：一つだけ最初話しておきたいと思います。今日森口先生が出張です。それでこの全体授業をするかどうか非常に迷いました。正直なことという「やめようかな」という気持ちがありました。森口先生が今真剣に必死になって同和問題に取り組んでいる。先生たちはその一生懸命さがわかる。所がここにたつて全体授業をするのが気が重いようなところがある。D組の授業と同じ。みんなが「手が重いという」それと同じように全体授業をするのは重い。で、今日の資料の場合にね、彼の「愛子さんとの結婚を認めてください」「うちは同和地区ですよ」「愛子さんから聞いています。両親が云々」とさらっと書いてあります。先生が一番せこいのは、こんなところがあります。「私は教師です。少なくとも人様に平等をとく人間として自分を偽るようなことはようしません」と。先生自身の問題として、心がゆれるんですね。自分がどこまで差別するという気持ちがとれていつているのか。タケノコの皮を剥いていくように、一枚一枚剥いていくように。

先生のもし、いろいろなものを取っていつてくれるとしたらみんなしかないんです。みんなと一つ一つ乗り越えていきたいと思う。そのために一番大事なのはこの前から言っているようにみんなが本音で話していくということ。ほんで、一緒に乗り越えていきたいなと思う。今日の資料を頭において、もう一度みんなに話していつてもらいたいことは、この前の授業とも重なっていくんですが、例えばこの前3Cで授業をしたとき「先生、同和問題、こないせんでもええんと違うん。私もうわかつとる。」とね。それからこの前、井上が言ってくれたように「資料から離れて私たちの周りの事を話していこう」という意見もある。今日は、資料を参考にはするけれど、離れて、同和問題についてみんながどんな風に考え自分の気持ちの中でどんな位置を占めているのかということについて話しあつていきたい。今日は問題点をしっかりだしあつてそしてまた明日からのエネルギーにしていきたい。

Y・I：さっき先生が言ってくれたように「もう私はわかっている。もうこんな勉強しなくていい。」つて言ってる意見の人が結構いると思います。3Bでやったときもある男子がそういうことを言つて「これ以上どないしたらいいんですか」と言つた時なんだけど、結局自分がわかっている、その場になったら、え〜と、私も前はわかっているというつもりでそういう意見だったんやけど、ほんまの差別というか、ほんまにまだ悲しんでいる人がおるのだから、わかっているだけではいかんと思うし、それにわかっているからと言つてそれだけで人を説得できる力があるのかと考えたとき私はぜんぜん自信が無いから、もっ

ともっと勉強して人に差別の事について聞かれたときに自分でちゃんと応えられるようになりたいと思って、一応がむしやらに勉強しています。

Y・Y：井上さんと同じようなんですけど、自分が言っている周りの人がわかっていなかったり、差別によって人を傷つけていたり、自分から投げ出ししたりしたら、授業とか資料で勉強している意味無いと思うんです。

M・S：僕も井上さんの意見と一緒に、今これ以上すばらしい意見はないと思いますが、資料を勉強しているうちにちょっとずつ意見が変わって今の僕達みたいに。僕達も一年の時よりかはだいぶ意見が変わってきているので、こんな事はいろいろいっぱい資料を勉強して学んでいったらもっといい意見とかに発展させていけると思う。

T：「もうしなくていい」という考え方の人もおると思う。それからこの前出ていたように、まだ「私も友達と違う」とか…。やはりなかなかこんなことっていえんと思う。だけでもそのことを言って、それじゃ今先生と一緒に勉強してきて、どんなところまで来ているのか、と。言うことをきちんと押さえながらいかなければ先に進んでいけないだろう。今、185名いるんです。みんなが同じように絶対差別を残したらいかんということでききよるから。「先生、もうそこでええでえ」と思っている人もいると思うんですね。そこで、そういうことをここで言いたい人がおれば、自分の意見はこうとか、3Bの意見に反対、こういう点はどうなのか、あるいはつけ加える意見があれば教えてください。

M・M：S君の意見に質問なんですけど、この同和問題学習においては、いい意見も悪い意見もないと思いますけど、Sくんはどう思いますか。

M・S：それはそうだと思います。

Y・Y：私もM君と同じような意見です。手を挙げて発表するのは自分が心から思っていることだったら、間違った意見とかじゃなくてみんなに通じると思う。

Y・I：私は意見という言葉が出たんやけど自分にとってプラスになる意見とマイナスになる意見があると思うんです。

T：こんな風に勉強していくことが必要だという意見あったんですがその他に意見があったら教えてください。今自分の思っていることが間違いであろうがなかろうがとにかく一回出して見てその中から考える。今、みんなの中にこんなことを言うとみんなからにらまれるんじゃないか、先生から怒られるんじゃないかという気持ちがあるかもしれん。

大事なことは今みんなに取って同和問題とは何かということ。みんなに取って同和問題になんですか。

Y・Y：私の考えている同和問題の授業というか学習というのは、私もそうなんだけど部落出身でその「部落」というワクの中にはめこまれてしまって身動き

が取れないっていうか、そんな感じがあるんだけど、こういう学習を積み重ねていっきよって、ほんで「部落の人じゃ」っていう見方が無くなってみんなが楽な気持ちで明るく幸せに暮せるためにも必要と思う。

Y・I：私は公開授業をする前に思っていたんだけど、今日の公開授業はまじめにせんとこうというか発表せんとこうとか思って、この前の時間遊んでいる人がいて、なんぼ頑張ったって応援してくれん人があるけん、私やだけが、私やだけでないけん、やんりよったらしんだいと思って黙っておろうというか「もうしんだいわあ」という気持ちだったんだけど、やっぱりみんなの気持ちを聞きよったら、手を挙げずにおれんようになったけん。この前ある子に聞いたら、手を挙げずにおれんようになったって聞いてうれしかったけん。やはり、誰かが先頭切っていかなあかんと思って…。私にそれができればと言う気持ちで頑張っています。

K・S：私は同和問題について…。目標が無いから…。何も無いけん。発表する資格などないけど、発表せなんだらよけいに…。

E・S：私は3年生になるくらいまではこの授業、この前の授業見ているときに私は何か罪悪感を感じた。今までの自分を反省している…。

Y・I：さっきのSさんの意見についてだけど、発表することはそれなりに考えていることだし、自分の本当の意見をいってもし人が傷ついたとしてもウソついてヘラヘラ笑って、結局自分から差別していく人よりもよっぽどましだと思いました。

A・E：私もSさんの意見についてなんだけど、私もSさんと同じような事で悩んだことあるんです。何も考えたくない人だったらこんな授業しても意味ないと思うんです。でも、何も考えてないということはないと思うんですね、こんな風に発表するということは。だからそれなりに自分の考えがあるということは今みんなに自分の気持ちをわかってもらえるということだから考えていないというんじゃないくて、Sさんみたいに私はどんどん発表できないからそういう点でSさんの方が素晴らしいんじゃないかなと思います。

T・H：僕は自分自身の事について言いますが、この全体授業はみんなの本当の心を聞いたりして自分の心と比べたりしています。そして、作者のつらさや悩みをみんなと一緒に考えていくことができると思う。

K・T：1，2年の時は差別の事はあまりわからなかった。でも2年の終り頃森口先生を見ていると差別の事についてごっつい真剣でみんなを説得するというか、絶対に差別をなくしていきたいという気持ちがあって、そんな森口先生を見ていると、まぶしくて前が見えなかったものでこれからは見上げていけるようにしたい。

M・S：僕は今まであまり発表していないけど、発表することは、自分の意見と同じ思いの人がほかに居ないかなという気持ちで発表していると思います。だから同じ意見でも発表していきたいです。

A・S：1年の時あまり勉強していなかったから、そのことが差別とわからないまま差別していた。2年になって全体授業をしだして最初はしんどい思いながら聞いていたけど、みんなこの頃発表し出していろいろわかるようになった。最近一人一人が発表することによって仲間の和ができつつあるように思う。

T：みんなが自分の本当の気持ちを出していく。それを聞いていく。そのことによって何かプラスになっていく。さっきYさんが言ってくれたように自分にとってプラスになっていってる部分がある。みんながこんだけ真剣になって考えてくれることが物すごくうれしい。Sが「こんなん言う資格あるんだろうか」と思う。先生も同じなんです。みんなからいろいろな言葉を突き付けられる。その中でこれはボーッとしとれん、そう思うんです。そこから先生たちの差別の皮が一つ一つ剥がれていってるんです。

Y・I：「ねんりん」とかを見よつてもイニシャルで書いてあるでしょう。名前を隠すということがすごくショックなときがある。うれしいときもあるけれど…。私、人から評価されるようなことしよらんのにと思ってSさんみたいな気持ちになる。先生が言うてくれたように「もう、せんでいいわ」という感じが多かって…。今、見よつても遊んでいる人見て、ごつつい腹が立つ。もつとみんな真剣に取り組んでくれたらと思う。そのためにも自分がしっかりしてちゃんと頑張っていきたいなと思いました。

M・M：学習会でN先生に自分は部落出身と教えてもらったけれど、その時、自分自身を自分が差別していたと思う。中2のときから真剣に取り組みだした。それ迄にもたくさん公開授業があったんだけど、せなしょうないけん、という気持ちで適当にやっていた。でも多くの人が本音を言ってくれるようになってきて、いまでは公開授業により真剣に取り組めるようになってきた。みんなの意見が聞けてうれしい。

T：みんな顔をあげてください。今Mが自分の事を言ってくれた。実は今まで20年間教師をしてきてね、こういう全体学習は初めてなんです、こういった同和問題学習で「自分は部落出身です」「私は部落出身です。」と聞いたのは今が初めてなんです。今こうした全体学習の中でそのような発言が出るまでになってきた。後どのように先生は話していったら言いのかよくわからない点がある。みんなの発表を続けてください。

R・I：僕はこの全体授業のときになったら頑張るという気持ちがよおけ出て来るけど、普通の道徳の時間になると「いややな」という気持ちもある。全体学

習が近づいてきたら頑張ろうという気持ちが増えるけど、終わったら頑張ろうという気持ちが無くなっていくのでこの全体学習が終わっても頑張ろうという気持ちはずっと保てるようにしたいと思う。

M・S：この前の3Aの授業のあと、数人の友達と部落の事について話合いをした。このような授業をしていくにつれて、その時のように友達との話合いも増えていくと思う。

T：ほかにないですか。さっきM君が言ってくれたこと、S君やSさんが言ってくれたことに対してどんな風に思いますか。

Y・I：S君の意見にたいしてなんですけれど、私も友達と一緒に帰っていて、部落の事について「何で部落に生まれた人がいかなの」とか…。部落の事について二人で一生懸命考えながら帰ったんやけど、それがすごくうれしかった、今度は部落の事について無関心ではいられなくなってきた。一歩進んでみんなと一緒に取り組んでみんなと発表できたらなあと思いました。

K・S：私は他人に甘える質だから、他人に言いたいこと言うし、私は他人に頼ろうとするから…。これからは他人にたよらず自分に甘えず頑張っていけるように協力してみんなでこういうことをやっていこうという目標がやっと持てるようになりました。

T：この前のみんなの感想だったか「あゆみ」だったか、こんなんがあったんっです。Iさんがいろいろ言ってくれて、もしIさんがゆうてくれてなかったら私は後悔しとるだろうなあ、というのがあったんですね。それに対して先生がコメント書いたんですが。この中でいろいろ言ってくれたことに対して、自分は同じ意見だという人がいるね。反対だという人もいるね。同じ意見だったら言わなくていいのと違うんね。言った人は自分と同じ意見の人がいるかどうか、自分を支持してくれるかどうか、聞きたいと思っている。「僕もまったく同じだ」とか「それを言ってくれて安心した」とか。そこで初めて言ったことが活きて来るし広がっていく。ええかな。

T：あるいはこういう意見がありました。これは去年の事です、1年間同和問題学習をしてきて自分がどういう風に変ったか書いてきているんですが。

「学習会の事を聞かれるとドキッとして応える。さも差別に負けていないかのように。でも内心嫌われたらどうしようか、無視されたらどうしようかとか、差別されないかとヒヤヒヤしている。気持ちの10分の7まではこの問題に触れられたくないと思っていた。10分の3は少しでもそういう気持ちを無くしたいという気持ち。今までは10分の8までは逃げ出したいと思っていた。いまでは10分の7。10分の1。本当に少しだけど私にとっては大きな進歩だと思う。みんなの生の声を聞いて私は差別から逃げてはいけないとおもうよう

になった。みんなが真剣に考えているのに私だけがソッポを向いてはいけない。みんなの意見を聞いていると胸が苦しくなる。そういう事を感じることができるようになったのは私にとってプラスだと思う。」そういう感想でした。今の感想に対してでもいい。できたら手を挙げられなかった人頑張って自分の気持ちを言ってほしい。

A・E：自分がどれだけ変わったかとわかっている人はいいい。私よりだいぶましなんじゃないかなと思う。というのは私は小学校のとき学習会にいていて差別の事についていろいろ学んできたけれど、その時は差別の本質というものがわからなくて、ただ差別はいけないと口先だけでしか言ってなかったように思う。今も軟化自分自分のいっていることが、今に自分の素直な意見かなって考えてしまいう事があるんです。だから、自分の気持ちを周りにさらけ出せるというか、わかってもらえる勇気が欲しいなって思いました。

M・M：「部落出身」ということは隠し続けたかった。でも、みんなの意見を聞いていると言わずに入られない。周りの人を信用しているから言えた、という部分もある。もし、言わなかったら心の中に何か残ると思ったから。

K・H：僕は小学校の時に学習会に参加していて差別の事は勉強してきたんだけど…。みんな本当に意見が出てきた。けど、やっぱりもつと自分の思っていることがちゃんと言えるようになりたい。

T：チャイムがなりました。あと1分くらい言わせてください。一つは今も感想文にあったように差別から逃げようとする気持ちが10分の8あったのが10分の7になった。1年間で10分の1進んだ。10年立ったら0になる。そんな数学の計算のようにうまくはいかんだろうが、先生はそれでもいいと思う。

T：もうひとつある。「僕は部落出身じゃけんど…」という話しが教室に帰ってもできるようになったら、一生懸命やって一緒に勉強してきた「かい」があるんじゃないかと思います。卒業していても自分の出身地を隠すようなそんなことにはなっていかなだろうと、前を向いてやっていけるようになるだろうと、そして周りの人も支えていけるようになるだろうと思うんです。

T：最後に自分の事です、今日前に立って、こうやって全体学習の司会というか、授業を始めてしました。やや意見を言ってくれる人に片寄りがあったんですが、みんないろいろ言ってくれました。みんなの前で偉そうなことを言いました。これは先生自身の一つの改革の第一歩につながっていくものだと思います。こんなこというと、佐野先生に怒られそうですが、この全体学習も担任の先生が代る代る全員がやっていきたいと思っています。そういう風にしていくことによって、先生たちもみんなと一緒に勉強していけるものと思っています。終わります。

【授業後の感想の一部】

○ 今日の授業はとても素晴らしかったです。本当に心の底からして良かったと思える授業でした。みんな自分の考えや意見を言うときに、言葉に飾りをつけたりせず、それぞれの思いのままをいっていたと思います。それだけ学年全員に信頼感を持っているということだと思います。それも全部2年生のと来から頑張って同和問題学習に真剣に取り組んできたからだと思います。これからも頑張って学習していき、もっともっと信頼感を深めたくさんの仲間を増やしていけたらと思います。

○ 3Dの公開授業であって、今日は体育館がとても暑くて気分が悪かったけれど、みんな頑張っていたので僕も頑張ることにして、今日なんか自然に手を挙げる事ができたように思います。やっぱり手を挙げるということは苦しいですね。

しかし周りの人が頑張ってくれることによって自分も頑張ることができる。これが友情というものなんかわからないけど、自分の腹を割って、建前を話すんじゃなくて、自分の本音というものを語ることができるように、今までの授業によって段々と毎日少しずつの変化というか進歩があるのでとてもうれしいです。この同和問題の学習は自分自身の学習であって、自分自身が変わってきているような気がするので自分の心を磨くことのできるものだと思います。今日の授業では大体の人が本音で発表してくれたような気がします。僕は建前で発表してくれるより本音で発表してくれる方がうれしい。本当の本音の発表というものはそれを議論しあうことができると僕は今日の授業で感じ取りました。やっぱり議論のできる公開授業というのはなんかやっていて自分の中で何か熱くなるものができて自然に手を挙げる事ができるような状態にしてくれます。みんなが自然に手を挙げる事ができる世になったときこそ本当の素晴らしい授業ができるような気がします。だからその日が来るのが一番待ち遠しいです。今日の授業では友情というものの素晴らしさがとても心に残っているし、やっぱり友情というものはいいなあと思いました。